

戦後80年 戦時下のすぎなみの記憶

—杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」の証言より—



Wartime Memories of Suginami
Presented by **すぎなみ学倶楽部**

表紙写真：中島飛行機のエンジンを搭載した民間機・KAMIKAZEモデルの置物。日本初の国際都市間連絡飛行記録を樹立した(関圭子さん所蔵)

History

昭和19年7月7日、日本が統治していたマリアナ諸島のサイパン島が陥落。同島はアメリカ軍の爆撃機拠点となり、日本全土が爆撃圏内に入った。3カ月後、B29(注1)部隊の第1陣が到着し、マリアナ諸島からの本土空襲が開始され

た。当初はB29の特性を生かした高高度精密爆撃を試みたが精度に欠け、翌年3月10日の東京大空襲から低高度の夜間焼夷弾(注2)爆撃に戦略を変更。杉並区も5月24日から25日にかけて最大の被害を受けた。

杉並区における空襲



昭和19年11月24日昼過ぎ、111機のB29が東京上空に来襲。第1目標は中島飛行機武蔵製作所(現東京都武蔵野市)、第2目標は東京市街地で、これがマリアナ基地B29部隊の最初の本土空襲であると同時に、杉並区初の空襲でもあった。区は、終戦までに延べ18回(出典:『新修杉並区史 下』)の空襲を受けたと記録されている。

◀元消防士・原田弘さんによる空襲の回数を記録したメモ

〈杉並区の空襲による被害〉

- 死者 181名(92,778名)
- 負傷者 611名(150,948名)
- 行方不明 4名(6,944名)
- 家屋全壊 71棟 / 同半壊 116棟
- 全焼 11,840棟 / 半焼 140棟
- 罹災者 43,059名(3,044,197名)

※()は東京都空襲被害 出典:『新修杉並区史 下』

久我山に墜落したB29

すぎなみ学倶楽部の証言記事に出てくるB29の久我山墜落について、『別冊1億人の昭和史 特別攻撃隊 日本の歴史別巻4』(毎日新聞社)に、その日一緒に出撃した元陸軍少尉の証言が掲載されている。それによると、調布飛行場から出撃した陸軍の戦闘機「飛燕」がB29に体当たりして撃墜させたのだという。任務を遂行したのは、学徒動員(注3)上智大学生の河野敬少尉であった。

杉並区にあった高射砲陣地

区内には、高射砲(注4)の陣地が、久我山、和田堀、向井草(現下井草)にあった(出典:『本土地上防空作戦記録:関東地区』(復員局))。久我山には、高高度で侵入するB29を撃墜するために開発された十五糎高射砲2門が、唯一実戦配備されていた。高射砲陣地の周辺では、視界の障害物を取り払うこととなり、向井草陣地では妙正寺裏の杉林がすべて伐採されたという。(出典:『証言 向井草高射砲陣地の回想』)

※『杉並風土記』では西荻北にも陣地があったとされる



和田堀高射砲陣地跡。半円形に配置された高射砲6門の土台が確認できる▲
(出典:国土地理院 昭和22年米軍撮影の空中写真を加工して作成)

咲かせ続ける平和の願い—アンネのバラ

区立高井戸中学校の校庭に、第2次世界大戦時にナチスの強制収容所で15歳で命を落としたユダヤ人の少女、アンネ・フランクゆかりのバラがある。「アンネのバラ」で知られるこのバラは、「平和のシンボルとして、ぜひそのバラを校庭に植えたい」という生徒の発言をきっかけに、昭和51年にアンネの父・オットー氏から贈られたものだ。生徒たちをはじめ、多くの人々の努力でバラは校庭に根付き、毎年5月と10月に大輪の花を咲かせ続けている。



▲区立高井戸中学校のアンネのバラ

B29などによる空襲

1 井草高等女学校の東の空からB29の大群が襲来

「昭和20年、偵察機とB29の大群が井草上空辺りで南へ進路を変えて荻窪方面に飛んで行きました。機銃掃射の応戦は届かず、小さな花火が打ち上がっているだけのように見えました」(【証言】ある女学生の戦時下の普通の日々)

2 井荻の家のすぐ近くに爆弾が落下

「井荻の家があった辺りは焼夷弾ではなく、爆弾が落ちました。中島飛行機の工場防衛のために、すぐ近くの現在は区立中瀬中学校のある所が高射砲陣地だったからです。でも弾はもう一発もなかったけれど」(【証言】中島公子さん)

3 天沼陸橋も破壊された

「中島飛行機東京工場には被害はほとんどなかったけれど、工場を狙った爆弾が流れて周辺に落ちて被害が出たね」(中島飛行機の戦後—証言集—)

4 間引き疎開は免れたが空襲で薬局が焼失

「裏の店からの類焼(もらい火)だったんだが、学校から帰ったら何もかも無くなっていてね。その後は、焼け跡にバラックを建てて生活していた」(石井薬局)

5 一面焼け野原の中で残っていたかしの木

昭和20年5月24日の杉並区最大の被害となった連続空襲で、区内の国民学校8校が全焼した。「でも(杉六小の)かしの木が残っていたんです。半分は焼け焦げていて、半分だけが残っている状態でした」(かしの木は残った(杉並区立杉並第六小学校))

6 久我山にB29が墜落した

「日本機に体当たりされた飛行機がふらふらしながらすぐそばに落ちこちんのかと思って、どんどんどん追っかけていたら、最後は久我山に落ちたの」(幼なじみが語る昭和の思い出)

7 高射砲の音を耳にしつつ防空壕に身を潜めた

「高射砲は、今の松ノ木辺りに並んでいた。ところが、爆撃機の飛行高度ゆえに高射砲の弾は当たらず、自らが破裂した破片で住居の屋根は打ち抜かれ穴を開けるのみ」(幼なじみが語る昭和の思い出)



▲米軍がまいたピラ(出典:「区民の戦争戦災証言記録集」)

建物疎開(注6)

1 中島飛行機の周囲の家は取り壊しに

「戦時色が強くなると東京工場の周囲50mが強制的に壊された。火災が発生すると工場に災いするからだろうね。軍の命令だろうと思うけど」(中島飛行機の戦後—証言集—)

2 金属が不十分で金物屋にとっては厳しい時代

「戦前の建物は軍用道路拡張のため取り壊しになり、昭和28年に新しい建物ができるまでは営業できずにいた」(カナモノワタナベ)

3 戦争で店を失うも文房具店として再出発

「阿佐ヶ谷駅そばにあったうちの店も建物疎開で店がなくなって、3年ほど休業したらしいんです。なんとか貯蓄で食いつないで、苦しい時期だったでしょうね」(大—喜久屋商店)

4 建物疎開のための取り壊しを行った

「主に消防署、警察署、学校など目立つ建物の周りや、建物が密集している地域の家屋を取り壊したが、立派な家がたくさんあって壊すのが惜しかった。本署に3台あった消防車のうち、1台は破壊消防用だった」(原田弘さん)

D 気象情報はすべて機密情報

「馬橋の陸軍気象部は広大な敷地で、キョロキョロしながら敷地内を探検するなど、とても許されるような雰囲気ではありませんでした。正門を入った右手に気象神社がありました」(【証言】中島邦男さん)

E 戦時には軍需工場に指定された 岩崎通信機株式会社

軍用秘密電話やレーダー開発でめざましい成長を遂げたが、戦後需要がなくなり、さらに元軍需工場ということから軍部の職業軍人たちは雇用しなくてはならぬ経営が圧迫し、平和産業に転換した。(岩崎通信機株式会社)

F 陸軍に接収された過去を持つ浴風会

福祉施設のため米軍の攻撃目標対象外といわれ、陸軍が施設の半数を接収。暗号解読や通信傍受など極秘任務が行われ、原爆投下のためにB29がテニアン島を出発したことも、ここで傍受された。(浴風会)

その他の証言

1 戦時下で自転車屋が売れるものはタイヤくらい

「立川に向かう軍の車が立ち寄って、部品を調達していくこともあった。あそこに行けば手に入ることになっていたんだろうね」(万田サイクル)

2 戦時中と戦後は和菓子の製造・販売が不可能に

太平洋戦争が始まると中島飛行機東京工場に動員された。戦争が終わっても和菓子を作る状況にはなく、サンダルやおもちゃを作って棚に並べ、和菓子作りが再開される日が来ることを待ち続けながら、苦境を耐え忍んだ。(三原堂)

3 戦況悪化で酒の販売量は月単位で厳しく決められた

単独では売るものに事欠いていた阿佐谷の商店街の酒屋10軒ほどは、窮余の一策として、一つの場所に集まり共同で配給していたという。(酒ノみつや)

4 東京大空襲が阿佐谷にもたらした意外なもの

「空襲後に、焼け出された下町の相撲部屋が梅里にある真盛寺に場所を借りて移ってきた。しかし稽古でお堂が傷むため寺を出なければならなくなり、その近所に居を構えたのが阿佐谷の相撲部屋の始まり」(原田弘さんが語る、戦前～戦中の思い出)

5 金属類回収令(注7)で重さ120貫の梵鐘を 献納した中道寺

梵鐘がなくなったことで山門が軽くなり、風の被害が起こる恐れがあるため、梵鐘と同じ重量のコンクリートの重しを作り、鐘楼にとっていってバランスをとっていた。(中道寺)



中道寺に残る代替梵鐘▲

軍需工場・軍需施設

A 公園になる前は旧産省機械技術研究所があった

戦前より機械の基礎研究、分析、鑑定試験、新技術の開発などが行われ、戦時には飛行機のエンジンを作る工作機械の試作を行っていた。(杉並区立井草森公園)

B 戦前の最先端技術を担った荻窪の 中島飛行機東京工場

海軍の「零戦」、日本の戦闘機として最も有名な陸軍の「隼」などに搭載されたエンジンを開発。杉並区以外にも武蔵野市をはじめ全国に工場を多数展開、終戦時には三菱重工業と航空機業界を二分するほどに成長した。(世界に誇る航空エンジンを開発—中島飛行機東京工場)

C 東京女子大学の礼拝堂は戦時迷彩が施された

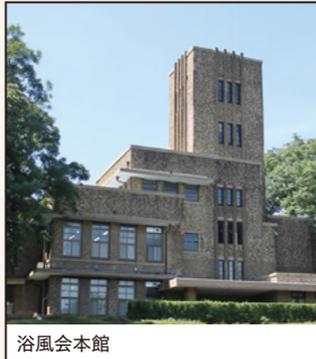
攻撃目標にならないように戦時中に施された白黒まだらの迷彩模様は落ちず、戦後白く塗装された。(東京女子大学)

戦争に関連する場所

地図について

本地図は、杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」の戦争関連記事のポイントを令和7年現在の地図に配置したものです。おおよその位置ですのでご了承ください。

- ①～⑦… B29などによる空襲
- 1～4… 建物疎開
- A～F… 軍需工場・軍需施設
- 1～5… その他の証言
- ①～④… 戦争に関連する場所
- … 軍用地境界標石(一部)



① 馬橋の陸軍気象部内にあった気象神社

前線での気象予報の精神的よりどころとなることを目的に軍事施設に建てられたのではないかと、といわれる。戦後、馬橋稲荷神社に引き取られ、後に高円寺氷川神社に移設された。(気象神社)

② 区立馬橋公園に残る軍用地境界標石(注8)

公園の辺りは明治22年に陸軍用地となり、昭和13年に陸軍気象部が置かれた。公園東側入り口付近には、陸軍の敷地だったことが分かる軍用地境界標石がある。(杉並区立馬橋公園)

③ 戦争の犠牲となった戦士の霊を慰める齋霊殿

氏子からの「戦地で亡くなった人の霊を慰めてはどうか」という提案で創建。馬橋村から出征し、帰らぬ人となった兵士340人の霊を祭っている。(馬橋稲荷神社 齋霊殿・忠魂碑)

④ 日本政治上重要な場所となった荻外荘

昭和戦前期、第2次近衛内閣の基本方針を話し合った「荻窪会談」が開かれた。また、対米開戦を回避するための「荻外荘会談」も行われるなど首相官邸の役割も果たしていた。(荻外荘(近衛文麿旧宅))

区内に現存する頑丈な設計の防空壕

コンクリートと鉄でできた、一時的に避難するというより、ここで籠城できるような地下室。実際に空襲を受けた時、この防空壕へ逃げ込んで助かっている。(現存する防空壕)



杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」の『戦後80年』杉並の戦争・戦災関連記事リンク集へは、上の二次元コードからアクセスできます。

戦争に関連する杉並ゆかりの本

すぎなみ学倶楽部に掲載している杉並ゆかりの本の中から、戦争に関連する本の一部を紹介



『この国の空』

高井 有一 著 (新潮文庫)

昭和20年3月10日の東京大空襲後から終戦までの杉並の住宅地が舞台。日常生活に深く入り込んだ戦争を、著者の筆は細部にまでこだわり再現し、読者をあの時代の善福寺かいわいへいざなってくれる。



『あの頃のこと』

吉沢 久子, 27歳。戦時下の日記

吉沢 久子 著 (清流出版)

戦時下の東京で体験し感じたことが市民目線で描かれている日記。全編を通して、空襲が杉並の暮らしに暗い影を投げかけ、日常を破壊していく様子が読み取れる。戦時下の杉並を知るためにも、手に取ってほしい一冊。



『立教高等女学校の戦争』

神野 正美 著 (光人社NF文庫)

太平洋戦争末期、戦時総動員体制を組み込まれていった立教高等女学校の学生たちが体験した戦争が描かれている。礼拝堂には機械音が響き、女生徒たちは日本の勝利を祈り軍需物資生産に従事した。



『杉並区長日記』

にいなる 新居 格 著 (虹雲社)

昭和22年に実施された杉並区長初公選で当選した新居格が、区長として苦闘した日々記録。杉並区役所に戦時迷彩(注5)が残る戦後まもない時期で、人々が平和で文化的な生活を望んでいたことが想像できる。



『荻窪風土記』

井伏 鱒二 著 (新潮文庫)

関東大震災から太平洋戦争後まで時代の流れを背景に荻窪での文筆生活をつづった自伝的作品。変わりゆく荻窪かいわいの様子、作家仲間や市井の人々との交流が著者一流のユーモアあふれる軽妙な筆致で描かれる。



『[赤いろうそくと人魚]をつづった小川未明』

岡上 鈴江 著 (ゆまに書房)

昭和5年に杉並に転居し、戦前、戦中、戦後にわたって作品を発表した小川未明を紹介。高円寺への空襲のさなか、一家で脱出した話など、戦時下の杉並の貴重な体験談も。



『夢声戦争日記』

徳川 夢声 著 (中公文庫)

昭和16年から20年にかけて杉並天沼で過ごした日々をつづった日記を、戦後に再編集した大作。戦時下の杉並に暮らした人々の共通の迷い、苦しみ、憤りが、夢声さんの生の声を通じて伝わってくる。



『近衛家の太平洋戦争』

近衛 忠大 著 (NHK出版)

曾祖父・文麿、祖父・文隆の足跡を国内外に訪ねた取材記録をまとめた大作。実は親中派、親米派だった考え、暮らしの場にも影を落とした政治的圧力の姿など、近衛家の人々の当時の杉並での様子も分かる。

文中注釈

- 注1 B29：第2次世界大戦中にアメリカのボーイング社が開発した、長距離・高高度・大量の爆弾搭載能力を持つ戦略爆撃機
- 注2 焼夷弾：内部に燃えやすい油などの物質を詰め込んだ爆弾。着弾すると燃え広がり、消火が難しい火災を発生させる。主に建物を焼き払うために使用された
- 注3 生徒動員：中学生以上の生徒・学生が戦争遂行のために労働力として動員されたもの。その一環として、特に大学生や高等教育機関の学生が戦場に送られた
- 注4 高射砲：主に敵航空機を迎撃するために配備された対空兵器。区の高射砲陣地では、口径の異なる七高(口径7cm)、八高(同8cm)、十二高(同12cm)、十五高(同15cm)が配備されていた。七高では、超高高度を飛ぶB29に届かず、陸軍は大口径化を急いだが、十五高が完成して実戦配備されたのは終戦の年であった

- 注5 戦時迷彩：太平洋戦争中、米軍の爆撃機から見えにくくする目的で、建物に塗装や模様が施された
- 注6 建物疎開：空襲による火災が周辺に広がるのを防ぐために、あらかじめ建物を取り壊して防火地帯を造ること。他にも軍用道路拡張、防空施設設置、軍事施設保護の目的で取り壊しが行われた
- 注7 金属類回収令：戦争中に鉄・銅製品を家庭や工場などから回収して軍需生産に回した
- 注8 軍用地境界標石：旧陸軍が所有していた土地の境界を示すために設置された石柱。明治22年から戦後間もない時期まで、現在の高円寺北1丁目～区立馬橋公園～現日本大学第二中学校・高等学校までは、東西に長い陸軍用地だった

杉並のことを

もっと知りたい!

調べたい!

と思ったら。

すぎなみ学倶楽部をお役立てください!

すぎなみ学倶楽部トップページ▶



歴史



ラストエンペラーの美弟に嫁いだ令嬢「嵯峨浩」、杉並にもあった「二・二六事件」など、地域にまつわる歴史的事象を掘り下げる。区に残る戦争関連の施設や場所、区内にお住まいの方々から伺った戦争体験も記録。

写真:今川氏ゆかりの観音寺

ゆかりの人々



第一線で活躍するタレントや作家、スポーツ、芸術、地域活動などの専門分野でめざましい活躍をする杉並の人々を紹介する。棟方志功などの偉人、井伏鱒二や太宰治など杉並の文士もこのコーナーに掲載。

写真:言語学者・金田一秀穂さん

スポーツ



戦前から学生ラグビーが盛んだった杉並で、現在も力を入れる学校や社会人のラグビーチームを紹介。野球やボウリングといったスポーツにも、杉並区は大きく関わっている。スポーツの奥深さが実感できるコーナー。

写真:杉並区軟式野球連盟

産業・商業



区内に149社(2020年度調査)も存在するアニメーション関連企業、世界的シェアを誇る卓球用品メーカーのほか老舗企業・商店、都市型農業を紹介。まちを歩くだけでは分からない地元で活躍する企業、職業に出会える。

写真:寿々木園

食



区民が薦めるレストラン、ベーカリー、スイーツショップなど、約300店の情報をジャンル別で紹介。老舗の名物、隠れ家のカフェはもちろん、人気のラーメン店も約70軒取材。区が認定するヘルシーメニュー店にも注目。

写真:麺屋かむい

文化・雑学



杉並らしいお土産、著名人や専門家が案内する散歩コース、個性が光るアートスポットなどを多数掲載。杉並が舞台として描かれる本も140冊以上を紹介。寺社の秋の例大祭など、ローカルな情報は役立ち度ナンバーワン。

写真:「名寄市」取材日記

自然



荻窪で発見された絶滅危惧種「杉並メダカ」や、杉並で観察できる野鳥紹介など、都会で自然に親しめるコンテンツ。セミの羽化の観察方法やヤゴの育て方など、区内外で役立つ、親子で学べる自然情報も盛りだくさん。

写真:キビタキ

特集



進学を検討する中高生の参考にもなる区内の学校紹介や、杉並の水害や震災対策、よりよいまちづくりに取り組む地域団体など、特集記事を掲載。荻窪三庭園を含む緑豊かな公園や、人気のお花見スポットも紹介。

写真:環七下の貯水施設

まち別検索



杉並区内の各駅ごとに歴史、人、食、スポーツなどジャンルを掛け合わせてクロス検索できる便利な機能と、まち別ダイジェストページが見られる。

すぎなみ学倶楽部ダイジェストブック

「戦後80年 戦時下のすぎなみの記憶」

令和7年7月発行

発行:杉並区産業振興センター観光係

問い合わせ:〒167-0043

杉並区上荻1-2-1Daiwa 荻窪タワー2階

電話 03-5347-9184

編集・デザイン:特定非営利活動法人

チューニング・フォー・ザ・フューチャー

杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」
www.suginamigaku.org

すぎなみ学倶楽部は、区民ライターが区の魅力取材、執筆した記事を掲載する杉並区公式情報サイトです。

登録印刷物番号
07-0042



杉並の情報いろいろ



suginami_namisuke
なみすけ公式インスタグラム